

会長就任のごあいさつ



公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会
会長 松岡 優

会員、賛助会員の皆さまにおかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また日頃より当会の運営・活動にご理解・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

このたび、当会の役員改選に伴い、6月14日(金)に開催されました令和6年度公益社団法人埼玉県臨床検査技師会定時会員総会におきまして22名の理事が会員の承認を受けて選任され、引き続き行われました理事会にて私 松岡優が会長(代表理事)を務めさせていただくことになりました。謹んでご報告申し上げます。

令和4年12月に埼玉県医学検査学会が第50回と節目を迎え、記念式典が行われました。本年2月には当会の創立70周年記念式典・祝賀会を多くの来賓を迎え盛会に開催されました。歴史の重みを感じる出来事が立て続けに行われました。過去を紐解くと当会は、昭和28年に埼玉県細菌病理試験技術員会として55名で発足し、昭和60年に特例民法法人である社団法人埼玉県臨床衛生検査技師会となり、平成26年1月に公益社団法人埼玉県臨床検査技師会へと変遷しています。その間、18名の会長のリーダーシップのもとで会が健全に成長し続け、会員数3,500名を超える大きな組織となり諸先輩方の努力の賜であることと敬服いたしております。神山前会長よりバトンを引き継ぎましたが、歴代の会長方のような技師会活動に対する豊富な知識もカリスマ性も持ち合わせておりません。周りの皆さま方のお力添えを邁進力に変えて会務を進めていきたいと思っております。

現在の医療の中で臨床検査は必要不可欠であることは周知の事実となっております。精度の高い検査結果、他施設への受診でも変わらない検査結果など診療・治療に大きく貢献しています。また超音波検査などの生理機能検査の需要も増すばかりです。

近年の様々なAI化、医療DX(デジタルトランスフォーメーション)などは、私たちにまた違った働き方が求められることでしょう。目の前にある多用な業務の中での技師会活動は、更なる効率化・省力化など新たな取り組みを進めていく必要があると感じています。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に引き下げられ、早いもので1年以上が経過しました。コロナ前の日常が多く戻ってきています。技師会活動におきましても多くの会員に足を運んでもらえるような研修会・学会、多くの県民に足を運んでもらえるような各種健康まつり・市民公開講座など積極的に取り組んでいく所存です。

本年1月には能登半島地震がありました、近年埼玉県は大きな地震は起きておりませんが、ひとたび首都直下地震が起きれば、県内に大きな被害が想定されます。行政をはじめとした関係各所との災害への取り組みも積極的に進めていきます。

会員、賛助会員、県民の皆さまの期待にこたえられるような会務運営を役員一丸となり執り行う所存ですのでご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。